

下平作江さんが語る

「被爆から74年を生きて」

とき 9月28日(土) 10:30~12:00

ところ 長崎被災協地下講堂

(長崎市岡町8-20平和公園横)

長崎平和宣言より

目を閉じて聴いてください。

幾千の人の手足がふきとび
腸わたが流れ出て
人の体にうじ虫がわいた
息ある者は肉親をさがしもためて
死がいを見つけ そして焼いた
人間を焼く煙が立ちのぼり
罪なき人の血が流れて浦上川を赤くそめた
ケロイドだけを残してやっと戦争が終わった

だけど.....

父も母も もういない
兄も妹ももどってはこない

人は忘れやすく弱いものだから
あやまちをくり返す

だけど.....

このことだけは忘れてはならない
このことだけはくり返してはならない
どんなことがあっても.....

2016年4月提起された「ヒバクシャ国際署名」に応じて「署名をすすめる長崎県民の会」が9月に結成され3年を迎えます。2017年7月には核兵器禁止条約が国連会議で採択、条約署名が70か国、批准が25か国となり、被爆者が切望する、生きているうちに「核兵器のない世界」への道筋が見えてきました。一方、核保有国は、「核抑止」政策に固執し、核兵器使用の危険を増大させています。「核兵器のない世界」を求める声は、国際政治でも、市民の間でも圧倒的多数です。その声を被爆者とともにより大きな声にしていきましょう。 誰でも参加できます。 入場無料



下平作江さん 1935年中国で生まれる。

城山国民学校5年生のとき爆心地から800メートル地点で被爆。今も「戦争のない、核兵器のない世界を」と被爆証言を続けている



核兵器禁止条約は、前文で核兵器の非人道性を告発し、核兵器による惨害を防ぐ唯一の確実な道として核兵器の廃絶の必要性を明確にし、第一条において核兵器の「開発、実験、生産、製造、取得、保有、貯蔵」、「使用と使用の威嚇」、「譲渡」、支配地域内での「設置や配備」を含むすべての行為を禁止した画期的なもの。

お問合せ先 「ヒバクシャ国際署名」をすすめる長崎県民の会
〒852-8115 長崎市岡町8-20長崎原爆被災者協議会気付
電話095-844-0958 FAX095-847-9135